

キュレーターズ・チョイス

写美専門スタッフが選ぶ名作、知られざる傑作から珍品まで
Curators' Choice from The Collection of Tokyo Metropolitan Museum of Photography

会期=2006年6月24日(土)~7月17日(月・祝)
会場=東京都写真美術館3F展示室・4F図書室



観覧料=一般500(400)円 学生400(320)円 中高・65歳以上250(200)円
※()内は20名以上の団体料金 ※東京都写真美術館の会員、小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
開館時間=10:00~18:00(木・金は10:00~20:00) 入館は閉館の30分前まで 休館日=毎週月曜日(但し7月17日[祝]は開館)
交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分 当館には専用の駐車場がございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください

#16
金子隆一
Ryuzo Kaneko

林平吉「静物」1925年 三色カラーブромオイル・プリント
Heikichi Hayashi "Still Life" 1925 Tri-Color Bromoil Print
発見したときに、林平吉が歴史年表の人から現実の人になったことに感動。若き木村伊兵衛も学んだ日本のカラー表現の原点である。



ライブラリアンズ・チョイス
Librarians' Choice

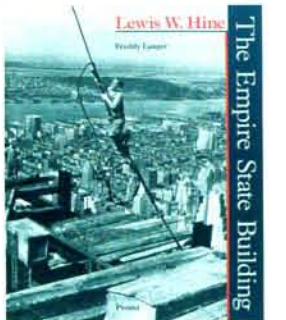
#17
古川繁子
Shigeko Furukawa

「ピュリッツァー賞写真展『20世紀の証言』」(1998年 日本テレビ放送網)
(1998年 日本テレビ放送網)
年に1回くらいは「少女とハゲワシ」という写真をみたいのだが」という問い合わせがあります。それによく使用する資料です。



#18
来代紀子
Noriko Kikuchi

「The Empire State Building」Lewis W.Hine
(1998年 Prestel)
ニューヨークの美術館でみた摩天楼を見下ろしながらビルを建設している写真を探している、というお問い合わせにご紹介した写真集。15年ぶりの再会が心に残る1冊。



#19
小林玉枝
Tamako Kobayashi

「Motoke Day light」(2003年 ビエ・ブックス)
木漏れ日の降り注ぐ森の中を移動する感の写真集。図書館の購入担当をしていた時に受け入れた印象的な写真集です。



東京都写真美術館には、展覧会や作品の収集、ワークショップ、図書室の運営、写真の保存についての科学的研究などにたずさわる学芸員・専門調査員・司書・保存科学専門員といった人たちがいます。このような専門スタッフが、日頃の研究や事業を企画・運営する中で培った個人的な視点にもとづいて、当館に収蔵されている23,000点以上の写真・映像作品、そして57,000冊以上の図書資料の中からセレクトした、名作、知られざる傑作からあつと驚く珍品まで、企画展を中心とする通常の展覧会などでは紹介することのできない作品・資料が一堂に会します。当館のコレクションの持つユニークな一面だけではなく、専門スタッフならではの個性的な「眼力」が見えてくることでしょう。

東京都写真美術館がもっている人の力(専門スタッフ)とものの力(コレクション)の出会いである本展を通して、もうひとつの美術館の魅力を発見できるのではないのでしょうか。

会場 東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
電話:03(3280)0099

交通機関 JR恵比寿駅東口より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
当館には専用の駐車場がございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用下さい。



「ギャラリー・トーク」
6月28日(水)14:00~7月5日(水)14:00~

東京都写真美術館
www.syabi.com

ミュージアム・チョイス
Museum Choice

エリファレット・ブラウン・ジュニア「田中光儀像」1854年 ダゲレオタイプ
Eliphalet Brown, Jr. "Portrait of Mitsuoyoshi Tanaka" 1854 Daguerreotype
東京都写真美術館寄託

1854年のペリー来航は日本開国のきっかけであるだけでなく、日本の写真史の黎明を告げる出来事のひとつであった。従軍写真師E.ブラウンJr.のダゲレオタイプ(銀板写真)カメラの前に立った日本人は、日本で初めて写真に写された人々である。現存わずかな点の内のこの一点には、日本人と写真との出会いの原点が刻み込まれている。平成18年度、重要文化財に指定された。

ディレクターズ・チョイス
Director's Choice

#01
福原義春
Yoshiharu Fukuhara

ラスロ・モホイ・ナジ「フォトグラム」1922年頃
Laszlo Moholy-Nagy "Fotogram" c.1922
フォトグラムの仕事はロマンチックな冒険だ。明るい光は黒い影に、影は光になり、まるで色が見えるようだ。



キュレーターズ・チョイス
Curators' Choice

#02
笠原美智子
Michiko Kasahara

ラリー・クラーク「タルサ」1960-70年代
Larry Clark "Tulsa" 1960-70s
写真を始めた頃、貸し暗室の隣のキヤラーに何気なく足を踏み入れた。見ていると涙があふれてきた。泣いている自分に驚いてしまった。展示されていたのは「タルサ」。



#03
石田哲朗
Tetsuro Ishida

ドゥエイン・マイケルズ「マルセル・デュシャン」1950-60年代
Duane Michals "Marcel Duchamp" 1950-60s
巨匠という枕詞を取っ払って写真の中の彼らを見る。このオヤジたちはかなりキル。僕は彼らから自由を奪、新しい価値を奪った。



#04
河村三枝子
Mitsuko Kawamura

下岡謙次「豆腐売り」明治初期
アルビュメン・プリントに手彩色
Renjo Shimoaka "Tofu Vendor" 1870's
Hand Colored Albumen Print

近代日本に怒涛のように流れ込んだ西洋文明。その一つ写真機は、消えゆく江戸の姿を捉えていた。



#05
山口孝子
Takako Yamaguchi

ルイ・デュコ・デュ・オーロン
「アジャンの風景、木と水の流れ」
1872年 エリオクローミー
Louis Ducos Du Hauron
"Passage d'Agen, avec arbre et cours d'eau"
1872 Héliochromie

世界最古のカラー写真。当時の感光材料は青色にしか感光しなかったにもかかわらず、先人たちは色への試みを重ねていた。



#06
関次和子
Kazuko Seki

佐々木龍「タツノトシコ」1987年
シルバー・ダイ・ブリーチ・プリント
Kon Sasaki "Sea Horse" 1987 Silver-Dye Bleach Print
「ひとつぶの砂に世界を、いちりんの野の花にも天国を見」(W.ブレイク)自然世界にある最少なモチーフは、宇宙の広がりがある。



#07
森山朋絵
Tomoe Moriyama

福田美蘭「Camera Eye」1995年 インク・ジェット・プリント
Miran Fukuda "Camera Eye" 1995 Ink Jet Print
映像工芸館に通じるアート&テクノロジーの過去と未来。ホルバインやニッソンを思わせる錯視の隠し絵画。



#08
丹羽晴美
Harumi Niwa

ヨセフ・スデック
シリーズ「私のアトリエの窓」より 1950-65年
Josef Sudek
from "The Window of My Atelier" 1950-65

誰しも自分の感覚や記憶を急激に引き寄せるツボのようなものがある。いま現在生きている私の感覚を呼び覚ます装置としての写真。それは「私の回路」である。



#09
中村浩美
Hiromi Nakamura

ドゥエイン・マイケルズ
「写真では見えないけれどここに存在するもの」1977年
Duane Michals
"There are things here not seen in this photograph" 1977
マイケルズは、プリントに手書きの文字を添えて独自の世界を確立した。この作品は、「写真」の正体がテキストを読むこと、想像力を働かせることによって判明する。



#10
藤村里美
Satoru Fujimura

吉川富三「裸婦座像」1931年 ブロムオイル・プリント
Tomizo Yoshikawa "Nude" 1931 Bromoil Print
これは写真なのか?ビザンチン印画法の写真を初めて出会った時に、頭の中に浮かんだのは大きな疑問符だった。



#11
岡部友子
Tomoko Okabe

アンドレ・ケルテス「はくれ雲」1937年
André Kertész "Lost Cloud" 1937
真新しいライカを手に1930年代のモダン都市に繰り出した写真家たち。ユーモアとウィットに富んだ作品は、写真時代の到来を象徴して伝えている。



#12
三井圭司
Keisuke Mitsui

エドワード・ウェストン「イヴァノスとブガッティ」1931年
Edward Weston "Ivanos and Bugatti" 1931
あの日に撮れたアサセルの向こうへ。ホールジャンキーが遊ぶ少クラシカルなエグゾーストと日眩ひなたぼっこ。



#13
小林克
Kazu Kobayashi

木村伊兵衛「新橋・ヤミ市」1945年
Ihee Kimura "Black Market, Shimbashi" 1945
ヤミ市でも最初期の頃の写真。路上に並んだジャガイモを、数人の和服の女性がジッと見つめている。



#14
神保京子
Kyoko Kambo

マン・レイ「甘美なる野」1922年
Man Ray "Champs Delicieux" 1922
シュルレアリスム達が希求した無意識下のイメージの開拓や、オートマタリズムへのアプローチにも繋がる、芳醇な映像美が展開されている。「光」を産む男の隠された名作。



#15
鈴木佳子
Yoshiko Suzuki

ウォーカー・エヴァンズ
シリーズ「地下鉄の肖像」より 1938-41年
Walker Evans from "Subway Portrait" 1938-41
このドキュメンタリーは、自宅の本棚から取り出してよく見ている。勇気をくれる、という大げさだが、見た後は、明日もがんばろうという気持ちになるのである。

